

何が起きているのか 安全、何キロ離れたら 福島原発で爆発、避難指示 東日本大震災
2011年03月13日 朝刊 3社会

印刷する。12日午後3時30分ごろ、大きな爆発が福島第一原子力発電所で起きた。テレビが伝えた映像では、何かはじけるように飛び散り、白い煙がもくもくとあがり、海岸線に沿って広がっていった。

「えー」。福島市大町の東京電力福島事務所では、爆発のニュース映像を見た男性社員が声を上げた。「圧力で爆発したということ？ そんなことがあったら大変なことだよ」。別の1人は「でも水位が変わってないから何なのか分からない。水素が漏れたということもありえる」。

「いったい何が起きているのか」。慌ただしい事務所に、緊張と不安が漂った。

原発近くの住民が避難している福島県川俣町の小学校。800人以上が詰めかけ、床に敷いた毛布に寝転ぶなどして過ごす。テレビは無く、新聞も届かない。昼過ぎにおにぎりが配られたが、「2人で一つ」。あつという間になくなった。

午後からは、薬剤師らが0歳から40歳未満の住民全員に、ヨウ化カリウムを精製水に溶かした水溶液をスポイトで飲ませ始めた。放射線を浴びることに伴う甲状腺がんや喉頭（こうとう）がんを予防するため、と説明があった。数十人の住民らが不安げな表情で列を作り、順番を待った。

第一原発がある同県大熊町に住む主婦（39）は、1歳の次男を抱きかかえ、5歳の長男の手を引いて川俣町の避難所にやってきた。自宅は第一原発から約2キロ。地震後は隣接する双葉町の親類宅に身を寄せたが、12日朝、防災無線の避難指示を聞き、さらに遠くへ移動した。夫は第二原発の警備関係の仕事をしており、なかなか連絡が取れない。「子どもの体が心配です」

第一原発から約4キロの地点に住む釣り具販売業男性（61）は、爆発のニュースを聞き、「これで農業や漁業は非常に大きな打撃を受ける。自宅にいつ帰れるのか……」と肩を落とした。

午後6時25分。政府は第一原発で起きた爆発などを受け、第一原発からの避難の範囲を10キロから20キロに広げた。

「避難を受け入れ終わったと思えばまた避難。最悪の状況だ」。福島県川内村の松本茂・

農村振興課長はこぼす。

第一原発からは最短で約12キロだ。隣接する富岡町から避難してきた約5千人を、村内20カ所の公共施設に受け入れたばかりだった。人口約3千人の村の施設に入りきらないほどの避難住民を受け入れた。ひと息つく間もなく、今度は村民も合わせた計8千人がさらに遠くへと避難する必要に迫られる可能性がある。

村は同夜、第一原発から20キロ圏内の村民と、富岡町から避難して来ていた町民の計約400人をバスに分乗させ、圏外の小中学校に避難させ始めた。

危険性が広がる事態に、住民は戸惑うばかりだ。

第一原発から北西に約25キロ離れた福島県葛尾村。12日午後6時25分ごろ、村役場の放送で「爆発の影響を防ぐために、外には出ず、窓を閉めて屋内に待機してください」と流れた。

同村の男性（77）は、天井がすっぽり抜け落ちた建物の映像を見て、ぞっとした。防災行政無線に従い、家にとどまっている。「覚悟はしないとイケない。放射線は風に乗って広がる恐れもある。対策はきちんと考えられているのか」

大熊町の関根てる子さん（50）は子ども2人を連れて、自家用車で実家のある葛尾村に避難してきた。

「原発から何キロ離れたら本当に安全なのか、誰にも分からない。地震に遭遇したと思ったら、翌日には原発の事故も起きた。住まいに戻れる日がどんどん先になっていく」

第一、第二原発から約30キロ余り離れた南相馬市内の避難施設でも、不安はつきない。一時は約1400人が避難していたが、危険性が広がることを心配し、多くの人々がさらに遠くへと移動。避難民は約600人に減った。

同市にとどまった男性（65）は、「爆発したらもっと遠くに逃げても同じ。自宅に近いここに残る」。あきらめ気味に語った。

●「命の危険感じた」原発作業員

「命の危険を感じた」。地震発生当時、福島第一原子力発電所のタービン建屋内で働いていた20代の作業員が、当時の様子を朝日新聞記者に生々しく語った。

作業員は地震発生時、福島第一原発5号機の2階建てタービン建屋の1階で作業をしていた。自分のいる建屋の西側には5階建ての原子炉建屋があり、この二つの建屋は専用の服や線量計を装着する必要がある管理区域内になっている。

大きな揺れを感じた後、建屋内の電気が消えた。どんどん揺れがひどくなり、コンクリートの壁が粉になって落ちてきて周囲が煙たくなった。

揺れが収まった後、タービン建屋東側にある、着替えなどをするサービス建屋を目指して作業員みんなで走った。

管理区域を出る際には「体表面モニター」という汚染の有無をチェックする装置があり、ゲートがある。しかし、停電のためにチェックができず、一時はゲートが閉じた状態で管理区域内に閉じ込められてしまったという。

仕方がなく作業員は手動の装置でチェックしたが、中には身の危険を感じてチェックを受けずにゲートを越えた人もいた。サービス建屋の外に出ると、敷地内の至る所に段差や地割れができており、事務所の中も物が散乱していた。

逃げ遅れた作業員がいないかどうかを確認し、その後は個々の判断で逃げた。避難する車で敷地内が渋滞して、なかなか外に出られず、敷地から離れられたのは地震から2時間もたった後だった。

「怖かった。死ぬかと思った」。作業員はそう振り返った。

(堀江昌史)

【写真説明】

福島第一原発に隣接する町から避難した住民たちは原発事故を伝えるニュースに耳を傾けていた＝12日午後5時42分、福島県川俣町、水野義則撮影

【図】

原発事故が起こったら

原発対応、くすぶる不満 自民幹部「24時間遅い」 協力姿勢は崩さず 東日本大震災
2011年03月13日 朝刊 4総合

印刷する。菅直人首相は12日、東日本大地震による被災者の救援態勢づくりや被災情報の収集に追われた。朝からヘリコプターで上空から被災状況を確認し、東京電力福島第一原子力発電所も視察。その後、同発電所で爆発が起き、夜には記者会見を開いて対策に全力を尽くす姿勢を強調した。野党は協力姿勢を示すものの、原発をめぐる対応には不満も漏れる。

首相は午前7時すぎには福島第一原発に到着。防災服にスニーカー姿でマイクロバスに乗り込み、敷地内を視察した。重要免震棟に移り、東京電力側から被災状況の説明を受けた。その後、再びヘリコプターに乗り、宮城県沿岸部の被災地を上空から視察した。

首相官邸は前日から夜通しで原発をめぐる対応に追われた。菅内閣は11日夜、原子力災害対策本部を開き「原子力緊急事態宣言」を発令。12日朝には福島第一原発から10キロ以内の住民の圏外への避難を指示した。福島第二原発についても半径3キロ以内の住民に避難を、3～10キロ以内の住民に屋内退避を指示した。

12日朝には、緊急災害対策本部と原子力災害対策本部を相次いで開催。松本龍防災担当相は会議後、記者団に「食料、仮設トイレ、灯油、ストーブ、水をどう調達するかが一番だ」と語った。政府調査団を宮城、福島、岩手各県に派遣し、現地調査を始めた。

首相は午後、与党の亀井静香・国民新党代表のほか、谷垣禎一・自民党総裁、山口那津男・公明党代表ら野党7党の党首や幹部を官邸に招いて与野党党首会談を開いた。首相は冒頭、「今日一日が救助という意味では最大の日ではないかと考えている」と指摘。さらに福島第一原発について「現在、半径10キロ圏内の住民避難をほぼ完了した。1号炉が微量の放射能を放出あるいは流出している状況であり、そういうことに備えてのことだ」と説明した。

被害のあまりの大きさに、菅政権に解散か退陣を求めてきた野党や民主党内の反主流派も、震災対応に追われる菅政権の批判を控えるしかない状況だ。公明党幹部の一人は「解散なんてできなくなった。今やったら大変なことになる」。12日昼の自民党の対策本部で

も「予算を丸のみし、後から足らざるところを補うという覚悟で判断して欲しい」（岩屋毅衆院議員）と、政府に協力するよう求める声が上がった。

首相はこれまで与野党の協力を訴えてきたが、ほとんど見向きされてこなかった。大震災をきっかけに初めて歩み寄りが実現した形だ。

とはいえ、福島第一原発をめぐる首相官邸の対応には批判がくすぶる。自民党幹部の一人は「菅政権の認識は甘すぎる。対応が24時間遅い」といら立ちを隠せない。震災対応が落ち着いた段階で一気に政権批判が噴出する可能性もある。

【写真説明】

与野党党首会談に臨む、手前から社民党・福島瑞穂党首、みんなの党・渡辺喜美代表、自民党・谷垣禎一総裁、公明党・山口那津男代表、共産党・志位和夫委員長ら＝12日午後、首相官邸、飯塚悟撮影

福島原発で爆発 第一1号機、周辺で90人被曝か 炉心溶融、建屋損傷 東日本大震災
2011年03月13日 朝刊 1総合

印刷する。経済産業省の原子力安全・保安院は12日、東日本大震災で被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所1号機（福島県大熊町）で、午後3時30分ごろに爆発音を伴う水素爆発が起きたことを明らかにした。枝野幸男官房長官は同日夜、原子炉の安全性を保つ格納容器は損傷しておらず、今後の損傷を防ぐため、容器を海水で冷やすよう指示したことを明らかにした。一方、福島県は同日、近くの高校のグラウンドにいた3人が被曝（ひばく）していたと発表した。3人を含む90人が救助を待っている間に爆発が起きており、県は全員が被曝した可能性があるともみて検査する。

●半径20キロ避難指示

政府は福島第一原発の避難指示対象を半径10キロから半径20キロに拡大した。枝野氏によると、その理由は、海水で冷却するなどの手段について原子力安全委員会など専門家なども協議した結果、新たなリスクはないと判断したものの、「念のために、万全を期すため」の措置だという。また、福島第二原発（同県楡葉町、富岡町）について、避難を指示する範囲を、半径3キロ圏から10キロ圏に拡大した。

東電は12日午後、原子炉格納容器の損傷を防ぐため、容器内の放射性物質を含む空気を外部に放出する作業に着手。同3時30分ごろに現場敷地境界で、1時間あたり1015マイクロシーベルトの放射線を確認した。

この値は、一般人の年間被曝線量の限度（1ミリシーベルト＝1千マイクロシーベルト）を、1時間で浴びる放射線量に相当する。日常生活で自然から浴びている放射線は平均で1時間あたり0・27マイクロシーベルト。放射線業務従事者は年間50ミリシーベルトかつ5年間で100ミリシーベルトが被曝限度とされている。

だが、その直後の午後3時36分ごろに爆発があった後、線量は70・5マイクロシーベルトまで落ちたという。こうしたことから、枝野氏は放射性物質の放出に大きな変化はなく、原子炉は制御下に置かれるとしている。

福島県によると、爆発で1号機の原子炉建屋の天井が崩落したことを確認したという。東電社員ら4人が負傷し、搬送されたという。

東電の小森明生常務は12日夜の会見で、第一原発について「現在、原子炉の様子がかめないが、時間ごとの（放射性物質の）放出の可能性は高い。厳しい状況」と述べた。

放射線医学総合研究所や東電が原発敷地内で、燃料中に含まれる核分裂生成物であるセシウムやヨウ素を確認した。いずれも、ウランが核分裂をした後にできる物質だ。

こうしたことから、保安院、東電とも、炉心溶融＝キーワード＝の可能性が高いとしている。想定されている原発事故の中で最悪の事態だ。これが進むと、爆発的な反応を引き起こして広く外部に放射能をまき散らす恐れもある。

保安院は今回の事故を、国際原子力事象評価尺度（INES）の暫定評価で、1999年に茨城県で起きたJCO事故などと同じ「4」程度と位置づけている。

福島県が被曝したと発表した3人は、福島第一原発のある同県双葉町の双葉厚生病院の患者や職員とみられる。年齢や性別は不明だが、3人とも除染しなくてはいけないという。3人とともに行動していた87人も被曝している可能性が高いとみて、今後調べるという。

県などによると、双葉厚生病院の患者らは避難先までの道路が陥没したのでバスで逃げることができなくなっており、計191人が孤立していた。救援にきた陸上自衛隊のヘリ

コプターに乗るため、病院を出て第一原発から北へ約3キロの県立双葉高校のグラウンドに移動し、90人が待機していた。

待機中に第一原発1号機が爆発。県は、当時南寄りの風が吹いていたため放射能を浴びている可能性があるとして3人を抽出検査したところ、被曝が判明したという。

◆最悪の事態回避へ懸命

福島第一原発は「炉心溶融」が起き、放射能が外部に放出される中で、「半径20キロ」の住民が避難するという事態にまで進んだ。炉心の損傷が大きければ、今後、放射能の大量放出という事態もある。異例づくめの状況の中で、最悪事態の回避にぎりぎりの模索が続いている。

12日、原発の建屋内で水素が爆発し、建屋が壊れた。問題はその爆発によって建屋の内側にある格納容器がどの程度損傷したかだ。

枝野官房長官は「破損していない。爆発前後で放射能の出方に大きな変化はない」と発表した。原発全体が壊れたような爆発に見えたが、最悪の事態は免れたといえる。しかし、格納容器は、内部のガスを抜くために弁を開け、防護機能が失われている。油断はできない。

原発史上最悪となった1986年の旧ソ連チェルノブイリ原発事故では「30キロの避難」を余儀なくされた。原子炉そのものが爆発して核燃料が直接大気に露出し、長期間放射性物質が大気中に噴き上げた事故だ。

79年の米スリーマイル島（TMI）原発の事故では、圧力容器内の水が減って、今回と同じく炉心溶融が起きた。しかし、格納容器もその内側の圧力容器も損傷せず、放射能の大量放出はなかった。

福島第一原発は今回の事故で、チェルノブイリ、TMI事故に続き大事故のリストに加わる。TMIより大きな事故といえるだろう。

広域避難はチェルノブイリを思い起こさせる。しかし、この事故と直接比較することはできない。

それでも、これほどの避難が必要なのか。政府は「念のためという意味もある広域避難」と説明したが、それは指示を出した後だった。

今後は炉心の状況、放射能データなどをもっと丁寧に説明すべきだろう。不十分な説明のまま、夜に避難指示をだすようなやり方では不信感が増すだけだ。

東京電力は、格納容器内を海水で満たす措置を始めた。前例のない極めて異例の作業でリスクも大きい、最悪事態を防ぐために採用した。これが奏功するかどうかかわからないが、失敗も許されない。

(編集委員・竹内敬二)

◆キーワード

<炉心溶融> 原子炉内の水位が下がり、炉心が水中から露出すると、燃料の温度が上昇し、燃料を入れた金属製の器(被覆管)が溶ける。冷却が不十分だと燃料の溶融から、さらに炉心の構造物の破壊と落下が起こる。ここに水があると、水と溶融物が接触し急激な爆発が起こる恐れがある。爆発で格納容器が破壊されれば、大量の放射性物質が環境に放出されることになる。

■確認された被害者数(総計)

死者 686

行方不明 642

負傷者 1426

(13日午前0時現在。警察庁まとめのため、記事中の数字と違う場合があります)

死者 行方不明

北海道 1

青森	3	1
岩手	2 5 8	2 3 5
宮崎	1 7 8	8 1
山形	1	
福島	2 0 4	3 0 7
茨城	1 7	2
栃木	3	
群馬	1	
千葉	1 3	1 6
東京	4	
神奈川	3	

【写真説明】

(上) 爆発音とともに白煙を上げる福島第一原発1号機＝12日午後、日本テレビの映像から、時事

(下) 鉄骨がむき出しになった福島第一原発1号機＝東京電力提供

危機管理ちぐはぐ 避難指示、ふれた情報 福島原発の対応で菅政権 東日本大震災

2011年03月13日 朝刊 3総合

印刷する. 東日本大震災による影響で緊急事態宣言が出された福島第一原子力発電所の1号機をめぐる対応で、菅政権の国民への情報提供が後手に回っている。原子炉内の燃料の

溶融が進んでいる可能性に加え、12日午後には敷地内で爆発音も確認されたが、国民に大事な避難指示の範囲を半径10キロから半径20キロまで拡大したのは、その3時間後。菅直人首相が国民へのメッセージの中で発表したのは、さらに2時間後の午後8時半だった。

12日午後3時36分、福島第一原発の敷地内から爆発音と白い煙が確認された。2時間余りたった午後5時46分、枝野幸男官房長官は記者会見を開き、「原子炉そのものであることは今のところ確認されていないが、何らかの爆発的事象があったことが報告された」と語った。ただ、さらなる避難指示は否定した。

枝野氏が会見した時点で、政府は福島第一原発から半径10キロ圏外への避難指示を出していた。会見で「10キロ圏外への避難指示で十分なのか」と問われると、枝野氏は「放射線の計測では、前回の測定結果からは10キロ圏外にいる方は今のところ大丈夫だ」などと繰り返した。

前日の11日深夜に公表された政府資料には、福島第一原発の2号機をめぐる現状の記載事項の中で「炉心損傷開始予想、22時20分頃」「燃料被覆管破損予想、23時50分頃」といった記載があった。こうしたことから、福島第一原発をめぐる炉心溶融や屋外への放射線放出の可能性が指摘されていた。

枝野氏の会見は30分余り続いたが、その直後の午後6時25分、菅首相は原子力災害対策特別措置法に基づき、福島県知事などに宛てて、福島第一原発周辺の避難範囲を半径20キロ圏外まで広げるよう指示。ただ、この時点で避難範囲の拡大は会見などで発表されなかった。

午後7時すぎ、福島県は福島第一原発の避難指示の範囲が拡大することを報道各社に明らかにした。一方、首相官邸はホームページ上に「指示書」を掲載したものの、避難範囲拡大を会見で明らかにしたのは、菅首相が国民に向けて自らメッセージを発した午後8時半、爆発音から5時間後のことだった。

こうした対応に、与党の民主党内のベテラン参院議員は「具体的なデータがないので、『落ち着け』と何度も言われるたびに不安になる」と指摘。鳩山政権時代の閣僚経験者は「情報開示の仕方がお粗末だ。専門家による分析と、政治による説明の仕方は違う」と述べた。

党執行部には「原子力行政や電力側からの情報提供があまり迅速でない面がある」（党幹部）と、政権を気遣う声もある。ただ、別の党幹部の一人は「何でもっと踏み込んで言わ

ないのだろうか」と漏らした。

首相は会見で「新たな事態が生じたことに伴い、20キロ圏の皆さまにも退避をお願いすることにした」。続けて午後8時40分過ぎから枝野氏が会見し、「爆発は建屋の壁が崩壊したものであり、中の容器が爆発したものではない」と説明。避難範囲については「具体的に危険が迫ることはないが、念のため、万全を期す観点から20キロに拡大した」と語り、放射線量が減っているのに避難範囲を広げたことには「放射線量のみで判断すると受け取られたとしたら申し訳ないが、総合的な判断で20キロ圏内からの退避という判断をした」と述べた。

こうした政府の対応について、災害時の心理に詳しい広瀬弘忠東京女子大教授（災害・リスク心理学）は、「パニックを恐れて、余計な情報は出さないという心理が透けてみえる」と話した。

避難指示の範囲が拡大された理由の説明も遅れた。広瀬氏は「わかること、わからないことをはっきりさせて、説明するのが危機管理の基本だ。私たちのリスク観はもっと成熟しているのにバカにしている」と批判した。

●保安院・東電、「確認中」連発

爆発とともに骨組みだけになった原子炉建屋。福島第一原発で何が起きたのか。12日午後3時半に起きた爆発を巡り、国や電力会社は慌ただしく情報の確認や釈明に追われた。

東京・内幸町の東京電力本社では、午後5時ごろ、記者たちが広報担当者を取り囲んだが、「ちょっと確認してます」と繰り返すのみ。会議室に入って10分ほど打ち合わせをした後も、「タービン建屋付近で白煙が上がった」と言った後、別の担当者が「原子炉建屋かもしれない」と翻すなど、情報の混乱ぶりが明らか。

経済産業省原子力安全・保安院は当初、午後5時15分から記者会見を開くとしていた。しかし、開始直前になって、延期。広報担当者は「首相官邸とも調整をして、情報を集約してから会見する。非常に厳しい状況だ」。

結局、会見が始まったのは午後6時。爆発からすでに2時間以上経っているのに詳細な情報はほとんどない。「どこで爆発が起きたのか」「状況をもっと詳しく」「原子炉は安全なのか」といった質問に対応した中村幸一郎審議官は、「確認しているところ」「情報を収集

し、分析し、検討することが大切」などと、メモに目を落としながら同じ文言を繰り返すばかりだった。記者から「説明がなければ住民も安心できない」と詰め寄られた。

午後6時前から正式な記者会見をした東京電力も情報のなさを強調した。立ったままで、説明をした原子力運営管理部の担当者らは質問に対して「確認中」を繰り返した。

原発の現場で作業をしていた東電の関係社員ら4人は病院に運ばれ、意識はあるという。原子炉に水を入れる作業をしていたと説明した。ただ、「原子炉建屋の屋根が崩落したのはテレビで確認した」と語るなど、現場から情報が得られていない様子。作業の中身や放射性物質の拡散の状況などについては、「わかりません」「確認します」で終わった。

午後7時半過ぎ、東電が停電に関する会見を開いたが、質問の半分は爆発の件に集中した。「原子炉建屋内部はどうなっているのか」と問われ、小森明生常務は「放射線濃度が高いので安全の確保を含めて時間がかかっている。建物の中をくまなく見るのは難しい」と苦しそうに述べた。

■これまでに起きた主な原子力施設事故

〈1979年〉 米スリーマイル島原発事故。炉心の半分が溶けて放射性物質を含む蒸気が外に漏れた

〈86年〉 旧ソ連チェルノブイリ原発事故。原子炉の出力が急上昇して爆発。放射能が高温の蒸気となって大気中に噴き出した

〈91年〉 美浜原発2号機事故。蒸気発生器の伝熱管が破断して原子炉が自動停止、ECCSが作動した

〈95年〉 高速増殖炉「もんじゅ」事故。冷却剤のナトリウムが漏れた

〈97年〉 東海村爆発事故。核燃料再処理施設で火災・爆発が起き、作業員が被曝

〈99年〉 JCO臨界事故。ウラン加工工場で臨界事故が起き、作業員2人が死亡。住民ら600人以上が被曝

<スリーマイル島原発事故> 1979年に米国で起きた原発事故。加圧水型炉（PWR）の冷却水ポンプの故障に始まり、運転員が緊急炉心冷却システム（ECCS）を止めるなどの人為的なミスが重なり、冷却水が大量に失われた。炉心の3分の2が露出する空だき状態になり、炉心の半分が溶けた。金属と水が反応して発生した水素が格納容器内で急激に燃えた。原発事故の国際評価尺度（0～7）では「レベル5」。原発史上初の重大事故となり、米国では原発の新規発注が止まるなど世界的な影響を及ぼした。事故後の核燃料の除去作業には11年の歳月と10億ドル（約800億円、現在の為替レート）の費用がかかった。

<チェルノブイリ原発事故> 1986年、ウクライナ（旧ソ連）のチェルノブイリ原発4号炉が大爆発して、大量の放射性物質を放出した事故。炉はソ連が独自に開発した型で、設計ミスに運転員の規則違反が重なって運転中に暴走、原子炉建屋内で水素爆発が起きた。

半径30キロ圏内の住民12万人が強制避難し、事故後の消火作業で被曝（ひばく）した約50人が死亡した。国際原子力機関（IAEA）などの専門家チームは、2005年、被曝に伴う死者の数を、将来分も含め約4千人との推計を発表した。事故炉は、鉛や粘土を上空から投下して放射性物質の放出を止め、コンクリートで囲い込んで今に至っている。

【写真説明】

記者会見する枝野幸男官房長官＝12日午後6時19分、首相官邸、飯塚悟撮影

（上）福島原発での爆発について、慎重に言葉を選びながら会見する経産省原子力安全・保安院の職員ら＝12日、東京・霞が関、越田省吾撮影（下）状況を説明する東京電力の藤本孝副社長（左）＝12日、東京都千代田区、長島一浩撮影

炉心熔融事故から20年たったスリーマイル島原発＝1999年、米ペンシルベニア州

コンクリートで覆われたチェルノブイリ原発＝1996年、ウクライナ

原発防護策、破たん 立地地域住民、言葉失う 東日本大震災、116人死亡 /福島県

2011年03月13日 朝刊 福島全県・1地方

印刷する。大地震は福島県に最悪の事態をもたらした。東京電力福島第一原発1号機は爆発後、天井が崩落、敷地境界では基準値を越す放射線量を記録した。一方、県警によると、震災による県内の死者は12日午後2時現在、116人、行方不明者は502人。県災害対策本部の発表によると、避難者は11万9197人で、大熊町1万1363人、双葉町7243人などが多い。住宅の被害は、全壊705棟、半壊120棟、一部破損1140棟。24万戸で停電している。

午後3時半ごろ、ドーンという爆発音が福島第一原発からあがるとともに、白煙がもくもくとあがり始めた。約40年にわたり、大きな事故もなく運転を続けてきた第一原発の信じられない姿だった。

煙が見えたのは、原子炉建屋とタービン建屋の間付近だが、原子炉格納容器が壊れたかどうかはすぐにわからない。福島市内で取材に応じた東京電力幹部は「どういう原因で起きて、どういう影響をもたらすのかは精査しなければならない」と答えるのが精いっぱいだった。ただ、爆発によって社員数人が負傷したことだけはすぐに判明した。

12日は時を追うごとに、第一原発の状況が深刻さを増していった。東京電力は原子炉の水位を保つ懸命の作業を続けたが、午後1時半過ぎには燃料棒が人の背丈ほど水面から露出してしまった。

その後も炉心融解の恐れが伝えられるなど、緊迫の度は増すばかり。県幹部は「燃料棒が露出したことは尋常でない事態。国と事業者の責任において最善の策を講じてほしい」と強く求めた。

爆発はそれからまもなく発生。被災の様子を伝えるテレビ画面からは、大きな白煙をあげ続ける福島第一原発の姿が映し出され続けた。

原子炉で万一の事態が起きても、運転を「止める」、原子炉を「冷やす」、放射能を「閉じこめる」という何重もの防護が原子炉の安全を保つ。原発立地地域の人たちは、国や東京電力からそう安全性を説明され続けてきた。

しかし、そうした防護策が次々と破られ、爆発の事態に。十分な情報がないまま、避難場所を転々とした立地地域の住民は言葉を失った。

● 「もう商売できないかも」

岸壁に打ちあがった漁船、路上に転がる漁具や車。いわき市の小名浜港は津波から一夜明けた12日朝、大きな爪痕が残っていた。住民らによると、揺れが収まった後、海面が音を立てて隆起し、岸壁を越えた。係留中の漁船は上下左右に大きく揺れ、乗用車などが住宅街へ押し出された。

近くで食堂を経営し、避難し、この朝戻ってきた照沼三枝子さん（61）は、散乱した冷蔵庫や棚、テーブルを見て「もう、商売はできないかも」と途方に暮れていた。

同市久之浜は津波で家々が倒壊しただけでなく、大火にも襲われた。時計・電器店を営む伊藤保幸さん（60）は、「津波が来るぞ」の声で高台へ逃げた。約30分で戻ると、今度は近所で火災が起きた。「炎が自分の家に迫ってきた。ああ、もうだめなんだなあ、と思ったら泣けてきた」と話した。

宍戸政彦さん（49）は、妻の由喜恵さん（35）と母の陽子さん（54）と相馬市内で縫製工場を営んでいる。地震直後、長男の中学1年生亮さんが帰宅しているのではないかと心配した由喜恵さんと陽子さんは車で磯部地区の自宅へ戻った。その約30分後、津波がすべてをのみ込んだ。亮さんは学校にいて無事だった。「2人がどこかで無事でいてくれることを祈ってます」

新地町駒ヶ嶺の農業後藤清雄さん（74）方では、この日家族が総出で家の掃除に追われていた。「建てて3年目」というオール電化だが、1階部分は居間や風呂場など、泥が堆積（たいせき）し、家具はぐしゃぐしゃにかき回されていた。「この流れ着いたゴミ、米作るには片付けなきゃなんねえけど、町でやってくれんのか」

一方、県南の白河市葉ノ木平の土砂崩れ現場では11日夜から、家族らが近くの空き地にテントを張り、救出作業を見守りながら、雪が降りしきる夜を明かした。10人を超えるとみられる行方不明者は朝になっても一向に見つからない。「早くしてくれ。死んでしまうっぺ（死んでしまう）！」。悲痛な叫び声が辺りに何度も響いた。

■避難所一覧

【福島市】市役所1、8、9階▽市民会館1階敬老センター▽保健福祉センター▽永井

川集会所▽県青少年会館▽福島競馬場▽鎌田集会所▽大豆塚団地（渡利）▽ポリテクセンター▽第一小▽三河台小▽平石小▽清明小▽瀬上小▽鳥川小▽蓬莱小▽大森小▽北沢又小▽渡利小▽南向台小▽蓬莱中▽第二中▽桜の聖母学院高▽橘高▽盲学校▽渡利幼稚園▽杉妻支所▽杉妻学習センター▽吉井田学習センター▽渡利学習センター▽信陵学習センター▽北信支所▽信夫学習センター▽清水支所▽飯坂支所▽渡利支所

【郡山市】小原田小▽小原田中▽行徳小▽桑野小▽安積一小▽安積二小▽安積三小▽高瀬小▽富田小▽桜小▽橘小▽薫小▽朝日が丘小▽安積二中▽富田中▽明健中▽一中▽二中▽三中▽五中▽大成小▽富田西小▽芳山小▽芳賀小▽富田東小▽金透小▽小山田小▽大槻中▽郡山東高▽郡山養護学校▽郡山女子大▽日和田小▽行健二小▽行健小▽行健中▽熱海小▽柴宮小

▽久留米公民館▽大島地域公民館▽小原田公民館▽赤木公民館▽橘公民館▽開成公民館▽芳賀公民館▽針生分館▽大槻東公民館▽小山田公民館▽桑野公民館▽富田公民館▽富田東公民館▽大成公民館▽富田西地域公民館▽行徳公民館▽永盛公民館▽田村公民館▽薫地域公民館▽三穂田公民館▽緑ヶ岡コミュニティセンター▽白岩コミュニティセンター▽大槻ふれあいセンター▽喜久田ふれあいセンター▽片平ふれあいセンター▽日和田ふれあいセンター▽西田ふれあいセンター▽高倉公民館▽中田ふれあいセンター▽河内ふれあいセンター

▽安積行政センター▽野球場▽美術館▽荒井浄水場▽荒井中央公園▽21世紀記念公園▽ミュージカルがくと館▽消防署▽安積総合学習センター▽障害者福祉センター▽玉川分館▽東原▽鬼生田大綱▽市民サービスセンター▽大槻青少年会館▽ニコニコ子ども館▽サンライフ富久山▽小山田団地集会所▽切払集会所▽原集会所▽梅沢集会所▽台新西集会所▽鍋山集会所▽三日市集会所▽春日集会所▽宮下集会所▽太田集会所▽東原集会所▽広綱集会所▽テクノアカデミー▽ホテルハマツ▽創価学会会館

【いわき市】小名浜一中▽小名浜西小▽小名浜二中▽小名浜東小▽江名小▽泉公民館▽小名浜一小▽泉小▽泉北小▽小名浜高▽玉川中▽江名幼稚園▽洋向台東公園集会所▽林城市営住宅集会所▽渡辺小▽なかやじ公民館▽小名浜二小▽江名中▽れいせん寺▽小名浜公民館▽下川公民館▽下神白三崎集会所▽浄光院▽秀英高▽小名浜市民会館▽青空児童クラブ

▽汐見ヶ丘小▽植田小▽植田公民館▽火力発電所▽磐城農高▽植田中▽錦小▽錦中▽勿来体育館▽南の森スポーツパーク▽勿来二小▽勿来二中▽勿来の関荘▽南警察署▽植田東中▽クリーンコールパワー▽錦東小▽川部公民館▽山田公民館▽勿来公民館▽文学歴史館

▽やまたまや▽報徳院▽東田墓苑▽常磐共同火力▽湯本一小▽湯本二小▽湯本三小▽湯本一中▽湯本二中▽常磐支所▽湯本高▽磐崎小▽岩が岡集会所▽グリーンスタジアム▽五反田集会所▽八仙団地集会所▽日渡集会所

▽好間中▽好間公民館▽好間三小▽ふれあい館▽四倉高▽大浦小▽大野中▽梅ヶ丘集会所▽梅ヶ丘南集会所▽海浜自然の家▽県営梅ヶ丘団地集会所▽高坂小▽内郷二中▽内郷一中▽高坂集会所▽綴保育所▽内郷コミュニティセンター▽内郷地区保健福祉センター▽聖特荘▽綴小▽高坂保育所▽御厩小▽小島公民館▽みやざわ集会所▽内町小▽宮集会所▽高坂中央集会所

▽川前公民館▽宇根尻集会所▽久之浜中▽末続集会所▽大久公民館▽りゅうこう寺▽小久集会所▽平窪公民館▽平第一小▽平第二小▽平第三小▽平第五小▽平第六小▽草野小▽赤井小▽高久小▽平第二中▽磐城高▽磐城桜ヶ丘高▽平体育館▽平第三中▽総合体育館▽上高久集会所▽藤間中▽福島高専▽中央台北中▽夏井小▽草野公民館▽赤井公民館▽中央公民館▽山崎公民館▽豊間小▽塩屋崎カントリークラブ▽望洋荘▽アリオス

【白河市】丸の内集会所▽関辺体育館▽サンフレッシュ白河▽久田野集会所▽社会福祉協議会▽第一小▽第三小▽みさか小体育館▽双石集会所▽石切集会所▽藤田建設▽真船集会所▽太陽社（八竜神）▽市役所▽表郷上宿▽表郷小松▽東福祉センター▽舟田集会所▽松風の里▽創価学会白河文化会館▽搦目集会所▽九番町集会所▽中央体育館▽中央中

【二本松市】南小▽北小▽塩沢小▽岳下小▽安達太良小▽原瀬小▽杉田小▽石井小▽大平小▽第一中▽第二中▽第三中▽安達高▽二本松工高▽塩沢住民センター▽岳下住民センター▽杉田住民センター▽石井住民センター▽太平住民センター▽市民交流センター▽安達ヶ原ふるさと村▽油井小▽渋川小▽川崎小▽安達中▽安達公民館▽渋川住民センター▽上川崎住民センター▽下川崎住民センター▽安達体育館▽小浜中▽小浜小▽岩代公民館▽安達東高▽新殿住民センター▽新殿小▽岩代中▽旭小▽旭ふれあいセンター▽木幡住民センター▽太田住民センター▽戸沢住民センター▽東和小▽東和中▽ウッディハウスとうわ▽東和第一体育館▽東和文化センター

【南相馬市】上真野小▽鹿島中▽さくらホール▽鹿島保健センター▽角川原体育館▽鹿島西部コミュニティーホール▽むつみ荘▽ひまわりデイサービスC▽すみれデイサービスC▽原一小▽原二小▽原三小▽太田小▽石神二小▽高平小▽原一中▽原二中▽石神中▽石神一小▽道の駅▽サンライフ▽原町保健センター▽テクノカレッジ浜▽石神第一幼稚園▽大甕生涯学習センター▽太田生涯学習センター▽石神生涯学習センター▽ひがし生涯学習センター

▽ひばり生涯学習センター▽原町中央図書館▽博物館▽社会福祉会館▽原町高▽老人福祉センター▽福浦小▽鳩原小▽老人福祉センター▽小高工業高▽小高中▽浮舟文化会館▽浦尻公会堂▽就業改善センター▽小高区役所▽上耳谷公会堂▽大井公会堂▽神山公会堂

【須賀川市】第二中体育館▽須賀川高旭陵会▽市体育館▽保健センター▽東公民館▽浜田地域体育館▽須賀川アリーナ▽西袋一小体育館▽西袋地域体育館▽稲田地域体育館▽小塩江地域体育館▽小塩江小体育館▽清陵情報高体育館▽大東公民館▽大東中体育館▽大森小体育館▽武道館▽柏城小体育館▽第一小体育館▽第一小校舎▽六軒集会所▽滑川公民館▽西袋公民館▽仁井田公民館▽仁井田中体育館▽保土原集会所▽第三小校舎▽阿武隈小体育館▽西袋二小校舎▽浜尾公会堂▽山ノ坊集会所▽館ヶ岡公会堂▽西袋中体育館▽仁井田小体育館▽大谷地区民館▽上北町集会所▽山寺北団地集会所▽長沼保健センター▽長沼老人福祉センター▽矢田野集会所▽吉美根集会所▽八幡山集会所

【伊達市】伊達中▽伊達ふれあいセンター▽梁川農業構造改善センター▽栗野農業構造改善センター▽山舟生林業構造改善センター▽保原中央公民館▽保原市民センター▽ほばらふれあいセンター▽霊山中央公民館▽下手渡公民館

【写真説明】

福島第一原発の被災で避難指示が出され、隣の田村市の小学校に避難した大熊町民たち＝水野義則撮影

津波に押し流されて変形した車両と、辛うじて残った渡線橋＝新地町のJR常磐線新地駅

小名浜港では漁船が津波で打ち上げられていた＝いわき市、中田徹撮影

19人死亡、負傷数百人に 東日本大震災 / 茨城県

2011年03月13日 朝刊 茨城全県・1地方

印刷する。 あっという前に津波が押し寄せ、家屋をなぎ倒していった。震災から一夜明けた12日、県内の被害状況が明らかになってきた。判明した死者は19人、負傷者は数百人にのぼる。日常生活を失った住民は、避難所生活で疲れ果てた表情を見せた。街では生活必需品を求める人々の行列ができた。電気や水道、通信などの寸断も依然として続いている。

県や県警などによると、県内で12日午後6時40分までに確認された死者数は19人。けが人は284人。うち重傷者が15人、軽傷者が126人、けがの程度が分からない負傷者は143人。行方不明者も少なくとも1人いる模様。

12日午後3時現在、全壊した建物は26、半壊24、一部損壊3417、床下浸水2004。建物火災は9件のうち4件が全焼、2件が鎮火していない。車両火災は134件発生した。停電は12日午後6時半時点で、49万6千軒に及ぶ。県南と県西から復旧しつつあるが、県内全域の復旧のめどは立っていない。水道の全域断水は県内の半数以上の市町村で続いている。

避難も続く。12日午後4時15分現在、39市町村の約6万3770人が小学校などでの生活を余儀なくされている。避難所は543カ所。県警によると、12日朝までに最大7万7285人が避難した。

国道や県道で計84カ所が通行止め。鹿行大橋は崩落して通行できない。県内の高速道路も全線通行止めが続く。

筑西市の筑西市民病院はあちこちにヒビが入り危険なため、入院患者71人が一時、下館総合体育館に避難した。その後、35人が栃木県の自治医大病院などの別の病院に転院し、36人が自宅に戻った。

海難事故も多く発生した。

第3管区海上保安本部によると、神栖市沖で11日夕、1人乗りの漁船が転覆座礁し、ヘリが乗組員を救助した。鹿島港でも日本郵船の貨物船が座礁しているのが発見。乗組員27人のうち17人がタグボートで救助され、10人は船体のバランスを保つために船内に残った。また同港に停泊中のパナマ船籍の貨物船は岸壁をつなぐロープが切れ、漂流している。乗組員全員は地震直後に船から避難した。

漁港にも被害が出た。北茨城市の平潟港では全体に液状化現象が見られ、ひたちなか市の那珂湊漁港では漁船2隻が陸に上がった。神栖市の波崎漁港でも巻き網漁船2隻が転覆し、1隻が座礁した。

●「迫る水、とにかく逃げた」

「薬もテレビも冷蔵庫もない。みんな流されちゃった」

地震直後に津波に襲われた北茨城市の平潟港。集落は建物の倒壊が相次ぎ、死者も出た。12日、避難先から自宅を見に来た女性（78）は、途方に暮れた様子だった。

地震後、避難の呼びかけで家を飛び出した。ゴーッと音が聞こえ、あっという間に足もとが水に浸った。「水位がどんどん上がった。水が迫ってくるものすごい音がして、怖くてとにかく逃げた」

海側の家の多くが、1階部分を失っていた。波に壁を突き破られたり、1階を押し流されて2階が崩れ落ちたり……。建物ごと6、7メートル押し流された家もあった。あちこちに、横転した自動車や家電、がれきが積み上がっていた。

同じ北茨城市の大津港。漁連職員の石川秀夫さんは地震直後、漁師らに「船を沖に出せ」と呼びかけた。高台に逃げ眼下を見下ろすと、6メートルある防波堤を津波がのみ込んだ。間に合わなかった10隻ほどが市街に流され、転覆して横腹を見せていた。

大洗町にも11日、最大4メートル20センチの津波が襲った。一夜明けた街は泥や砂に埋まっていた。全国からの海水浴客でにぎわう大洗サンビーチにほど近い同町大貫町では、軽トラックが横転し、ビニールハウスも倒壊した。田山猛夫さん（50）は地震の直前まで、約1万個のサツマイモを棚に干す作業を続けていた。が、津波で、すべて台無し。「きょうにも出荷するつもりだった。何もかもだめになった」

町内では3千人以上が避難所に。磯浜小学校で、近所同士の石田文子さん（66）と額賀ふみ江さん（62）は隣り合わせで座っていた。11日は炊き出しもなく夜は毛布だけで寒さに耐えた。余震が続き、一睡もできなかった。

2人とも夫と息子が漁師。津波を避けるため、皆、地震直後に船で沖へ出た。「漁師の宿命だけど、帰ってくるまで心配で心配で……」

●給水、数百メートルの列

ライフラインの復旧が遅れた県内では12日、食糧や水などを求める人々の行列があち

こちらで見られた。

全域で断水した土浦市は中学校など8カ所に給水車が出動した。市立第四中では朝から市民千人以上が、ポリ容器を手に数百メートルの行列。家族4人で並んだ無職の男性（68）は「もう2時間も並んでいる」と疲れた表情で話した。

筑西市でも9割近くの家庭で相次いで断水。市は1トントラックを乗せたトラック5台と消防の水槽車で給水した。

比較的被害の軽かったつくば市内でも、市民らが食料や給油を求めてコンビニやスーパー、ガソリンスタンドに長蛇の列。食料が店頭から無くなる店舗もあった。

駅ビルの立ち入り禁止が続く水戸駅では、東京方面へタクシーで帰ろうとする観光客やビジネス客が朝から行列を作った。午後には数百人が並んだが、車は1時間に数台。7、8時間待ちにもなった。

一方、被害につけ込む人も。臨時休業して無人だった水戸市内のコンビニでは11日深夜、割れたガラスから2人が店内に侵入し、商品を店外の仲間に渡して運び出していた。同店によると、食品などが盗まれたという。

●放射線測定器を北茨城市役所へ

福島第一原発の爆発を受け、県は12日、空気中の放射線量を測定する機器「モニタリングポスト」を北茨城市役所に設置するため、運搬を始めた。

■ライフライン情報

<安否確認>

NTTドコモ茨城支店は、地震発生直後から携帯電話のiモードによる災害用伝言板サービスを開始。伝言の登録は、iメニューにある災害用伝言板から。パソコンなどからは <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi> で確認できる。12日午前9時現在、県内の基地局（アンテナ）の6分の1にあたる約330局で障害が発生し、音声通話、パケット通信ともできないため、最大約60%の通信規制を行っている

る。

<水道>

結城、常総、常陸太田、筑西、坂東、稲敷、小美玉、大子、阿見、利根、龍ヶ崎、牛久、取手（小堀地区を除く）で一部断水が続いている。断水がないのは古河、守谷、つくばみらい、五霞、境、美浦。それ以外の地域では全域断水（12日午後2時半現在）。

水戸市では、百トン进行貯水している4カ所（白梅2丁目の白梅資材置き場、東台1丁目の十軒町児童公園、北見町の低区配水塔前、緑町2丁目の東町運動公園）の非常用耐震貯水槽で給水。また給水車7台が出動し、緊急性の高い場所を中心に回っている。

<炊き出し>

水戸市の約70カ所の避難所で、水や乾パン、アルファ米、簡易トイレなどを随時配っている。北茨城市では避難所で炊き出しの食糧を支給し、大津や平潟、中郷一、中郷二小学校など8カ所で給水。常陸大宮市は市役所の市民課で毛布や乾パン、飲料など、600～1千人分を支給する。大子町は大子町池田のリフレッシュセンターで自衛隊が24時間体制で給水作業をする。大洗町も、17カ所の避難所で炊き出しと給水を行う。

<ガス>

12日午後1時現在、東京ガスは日立市内の3万4千戸で供給を停止。東部ガスは水戸市内の270戸で供給を止めている。美浦ガス、筑波学園ガスは通常通り。

笠間市の県立中央病院は建物が被害を受け、救急患者の受け入れができない。水戸市の県立こども病院、笠間市の県立友部病院は救急患者を受け入れている。

<病院>

水戸協同病院は、建物やライフラインに被害が出たため、転院が必要な患者160人のうち、140人が水戸医療センターなどに転院搬送された。外来の透析患者も高萩協同病

院へ転院搬送予定という。

<商業>

スーパーマーケットのカスミは、停電で通常営業ができない店舗でも、できる限り店頭で水や食品などを販売する方針。電気が復旧次第、通常営業に切り替えるという。水戸市の京成百貨店は、レストラン街などのほかは13日から通常営業を予定している。

<銀行>

常陽銀行は被災者に対し、日曜日の13日、水戸市の本店営業部、土浦支店、日立支店など40店舗で臨時営業し、預金の払い戻しに応じる。通帳をなくした人にもできる限り便宜を図るといふ。営業時間は午前9時から午後4時30分。

<学校>

県立高校入試の2次募集について、県教委高校教育課は12日時点で、当初日程通りの「13、14両日の願書受け付け、17日学力検査」としている。ただし、各学校の状況を勘案し、変更もあり得る、という。

茨城大学は、延期した後期2次試験を18日に行うことに決定。詳細は15日正午以降に茨城大ホームページか、大学(029・228・8628)に確認。また、つくば市と取手市は14日の全小中学校の休校を決定した。

<高速道路>

県内を通る常磐道、北関東道、東水戸道路、東関東道、圏央道は全面通行止め(12日午前4時半現在)。常磐自動車道の三郷ジャンクション—いわき中央インター間は、緊急車両以外は通行できない。

<問い合わせ>

各市町村の災害対策本部へ。県全体の災害状況に関する問い合わせは県災害対策本部広報班（029・301・5974または029・301・5975）へ。

【写真説明】

平潟漁港近くの集落では、津波が家屋の一階を激突。倒壊した家も目立つ＝北茨城市平潟町

津波の影響で市場に乗り上げた漁船＝北茨城市の大津港